

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Lymph node metastases from cutaneous squamous cell carcinoma of the head and neck	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ガイドライン上での目次名称	SCC-CQ11-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ IV ）	
	Pubmed ID	16148695	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Laryngoscope	
	雑誌 ID		
	巻	115	
	号	9	
	ページ	1561-7	
	ISSN ナンバー	0023-852X (Print)	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月		
	著者情報		氏名
筆頭著者		Moore, B. A.	Department of Head and Neck Surgery, University of Texas MD Anderson Cancer Center,
その他著者 1		Weber, R. S.	
その他著者 2		Prieto, V.	
その他著者 3		El-Naggar, A.	
その他著者 4		Holsinger, F. C.	
その他著者 5		Zhou, X.	
その他著者 6		Lee, J. J.	
その他著者 7		Lippman, S.	
その他著者 8		Clayman, G. L.	
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	リンパ節転移のリスク因子、リンパ節転移が生存や再発に与える影響を調べる	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	M.D. Anderson がんセンター	
	対象者	1996～2001 に臨床試験に登録された 210 例のうち頭頸部原発例が 193 例 リンパ節転移陽性：40 例、陰性：153 例 部位：耳下腺部(12 例)、顔面(9)、頬(5)、鼻(5)、頭皮(3)、頸部(3)、下口唇(2)、上口唇(1)	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 14 ）	
	介入（要因曝露）	リンパ節転移	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	生存期間	1.主要 2.副次 3.その他（ 3 ）
	2	再発形式	1.主要 2.副次 3.その他（ 3 ）
	3	局所制御	1.主要 2.副次 3.その他（ 3 ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	再発と生存をエンドポイントに前向き調査を行った。 20.7% にリンパ節転移が出現した。リンパ節転移は統計学的に、再発($P = .002$) 組織学的所見（脈管浸潤 ($P < .0001$), i 炎症 ($P = .010$),低分化 ($P = .001$), 皮下脂肪組織への浸潤 ($P = .0001$),神経浸潤 ($P = .005$), サイズ ($P = .0007$) と関連していた。手術療法と放射線療法の併用患者は 95% がコントロールできた。Kaplan-Meier 生存分析では、リンパ節転移症例は overall survival ($P = .005$), disease-free survival ($P = .015$), disease-specific survival ($P = .0002$), time to recurrence ($P = .012$) を悪化させた。	
	結論	本研究ではリンパ節転移は稀ではなかった。上記のような予後不良因子を有する症例では手術＋放射線療法が必要であろうが、さらなる成績の向上のためには新たなアプローチが必要。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原 久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ） リンパ節転移に対する診断および治療について注意を促す論文である。